



# 既設アナログカメラシステムから ネットワークカメラシステムへの 更新事例

ネットカムシステムズ 代表取締役  
金延純男氏

## ネットカムシステムズ

ネットカムシステムズの創業者であり代表取締役である金延純男氏は、異色の経歴を持つ。そして、その経歴は、約30年前に大きなうねりとなったベンチャー企業に通じるものがある。本来の学業や仕事は別の分野だが、それ以上の夢をソフトウェア開発に見出したことで、あらたな船出を決意し実行し、今なお我が国のソフトウェア産業で活動している方々と姿が重なり合う。

2006年に設立以来、同社はネットワークカメラ関連ソフトウェアの自社国内スタッフによる開発を進めてきている。録画用ソフトウェア、映像表示用ソフトウェア、携帯動画アプリケーションと、時代の需要を一步先じたソフトウェア開発を得意としている。具体的には、ネットワークカメラ録画用ソフトウェアのKxView Pro、そしてKxView Pro32およびBb Recorderである。そして、ネットワークカメラのパン/チルト/ズームを調整するカメラポジションムバーCPM、アラーム信号にてFTP転送で受信をし、ライブ画像を表示するソフトウェアのPopUpViewなどである。これらのソフトウェアを駆使して、1台から数百台までの様々な規模のシステム構築を実現している。9月にはH.264対応版をリリース予定で、自社開発のため、顧客の細かなニーズに対応した各種カスタマイズにも柔軟に対応している。

そのほかにも、ユーザーがサーバを維持管理することなく利用することができるASP方式の遠隔録画保存サービスも用意して、ユーザーフレンドリーのリソリューションを提供している。そして、最小コストで最大効果の実現を目指している。

これまでの市場予測では、監視カメラ市場ではアナログカメラが徐々に減少し、IPカメラに移行すると考えられていた。しかし実際には、アナログカメラは減るどころか増えている。金延氏の講演は、意外な指摘から始まった。同氏は「実はIPカメラはアナログカメラ以上に増えている」と、監視カメラ市場の現状を示した。

## KxView ProによるIPカメラへの更新

金延氏は、竣工時にはアナログカメラとタイムラプスビデオで構築していたシステムを、アナログカメラからIPカメラへの更新した事例を紹介した。具体的には、既存のアナログカメラをIPエンコーダでIP化し、さらに10台のIPカメラを追加。さらに、タイムラプスビデオを録画サーバに置き換えたことで、テープ交換が不要になり、運用が楽になったことを紹介した。

このようなIP化したシステムを統合管理するのが、同社のネットワークカメラ録画ソフトウェア「KxView Pro」である。同製品には、カメラ9台用、16台用、32台用があり、32台用はカメラを200台登録することが可能で、スイッチャ的な利用も可能である。また複数のKxView Proシリーズを統合管理できるKxView Proコンソールを使うと最大9,999台のカメラを管理できる。

また、同氏はH.264をMJPEGと比較し、「画質が同じなら、H.264のファイルサイズはMJPEGの1/12」とその利点を指摘。一方で、今後の主流はH.264だが、実際のシステムでは複数のファイル形式を併用する「デュアルコーデック」が中心になるのではないかと予測を示した。

## ネットカムシステムズのこだわり

講演の締めくくりに、金延氏は「使いやすい、操作が簡単、お客様の立場から作りたい」、「国内で開発」、「安定性、信頼性」という同社のこだわりを紹介。特に安定性については、できるだけ止まらないのはもちろんだが、「止まった時の対応を重視する」と語り、同社の対応力の高さを強調した。

